

令和4年度 第一中学校区地域包括支援センター事業実施評価票

資料2-1

実施方針	目標	具体的な取り組み	実績	評価		課題・今後の方向性	
				取組毎の評価	方針毎の評価		
高齢者を地域で支える体制づくり	地域住民が主体的に介護予防に取り組めるよう支援します。	しまとれや居場所を実施していない地域での紹介・新設や、既存の地域活動の継続を支援していく。	しまとれや居場所の紹介、新設に向けた支援：3ヶ所（伊久身地区、伊太地区、向谷地区 等）	伊久身地区1ヶ所、伊太地区2ヶ所、向谷地区1ヶ所の計4ヶ所で新設された。	◎		福祉事業所や放課後児童クラブ等での実施が可能かどうか働きかけをしていきたい。
	多死社会を迎える中でどう生きるかを考える機会が持てるよう支援します。	もしバナゲームの体験を通して、人生の最期に大切にしたいこと、思いを知る機会を持つ。	もしバナゲーム開催：年10回（高齢者団体参加者、スタッフ、民生委員、事業所職員等）	5回実施	△	△	今後は介護サービス事業所へ働きかけていく。（ACPも含む）
	高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすための体制を整えます。	個別課題解決や地域課題について地域ケア会議を開催する。 個別地域ケア会議 テーマ：①多重課題世帯支援 ②介護者支援・離職防止 ③高齢者の住まい 小地域ケア会議 テーマ：①多職種連携体制 ②介護者支援 ③地域資源について	個別地域ケア会議：年7回 小地域ケア会議：年3回 参加者：地域住民・行政・障害・福祉課・社協・民生委員・介護支援専門員・介護保険事業所・不動産業 等	個別地域ケア会議：4回 小地域ケア会議：5回	○		介護支援専門員に地域ケア会議の勉強会等を開催し、活用を促す。また、日々の相談の分析を行い地域課題を抽出し、開催していく。
認知症施策の推進		若い世代や職域サポーターを養成する。	認知症サポーター養成講座の開催：5回（小中学校、放課後児童クラブ、ネットワーク参加事業所）	福祉教育推進連絡会に出席し、管内の小中学校に開催を打診した。 二小と神座小で計2回実施。	△		引き続きキッズサポーターや職域サポーターの養成に力を入れていく。
	認知症になっても、最後まで住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができる地域づくりを目指します。	認知症の人が安全に外出できる地域の見守り体制づくりや、ICTを活用した検索システムの普及を図る。	・搜索模擬訓練の実施：年1回（稲荷町自治会） 参加者：自治会・地域住民・行政・民生委員・ケアマネ等 ・みまもりあいアプリの講話の開催：年1回（ネットワーク参加事業所）	未実施	△	△	実施が難しいため、希望があった場合に再検討する。 みまもりあいアプリについては、必要時に周知をしていく。
		認知症の人やその家族の社会参加を支援していく。	・既存のオレンジカフェの定期訪問、交流会 ・オンラインオレンジカフェの開催：年1回	・既存のオレンジカフェに電話で状況確認をしている。 ・健康サポート薬局主催のオンラインオレンジカフェに参加した。	△		・各オレンジカフェの再開時にスムーズに連携が図れるよう、引き続き情報交換をしていく。 ・調剤薬局と連携し、オンラインオレンジカフェを実施していく。
多職種、多機関とのネットワーク構築	多職種、多機関と連携を図り、チームで高齢者を支援していきます。	地域の企業に地域課題を発信し、高齢者の見守り体制の強化を図る。	第一地区高齢者見守りあんしんネットワーク通信の配布：年2回（5・10月） 配布先：ネットワーク参加事業所	年2回配布	○	○	今後も年2回のペースで発行する。1回は事業所を訪問し情報交換する。
		医療・ケアを提供する専門職の会を定期的開催する。	ケアカフェ：年4回（5・8・11・2月） 内容：企画は当番制。 参加者：医師、薬剤師、ケアマネ、介護事業所、医療介護連携室、行政 等	4回実施	○		多職種の連携を深めるため今後も定期的開催する。

必須項目

選 択 項 目	家族介護者の負担軽減・離職防止に向けた取り組み	安心して在宅介護が継続できるよう支援してまいります。	家族介護者が相談しやすい体制づくりを行う。	出張相談会：年3回（旧北中学校区）	神座・相賀地区：1回 ヒバリヤ：4回	◎	△	神座・相賀地区については、自治会の年間行事として年2回出張相談会を開催していく。
		介護離職についての実態を把握し、防止に向けた働きかけを行う。	・介護離職に関するアンケートを配布・集計。 配布先：ネットワーク参加事業所 ・企業を対象とした介護勉強会の開催：年1回	・アンケートを配布した。 ・介護勉強会は未実施。				△